

令和5年度重点研研究計画（案）

1. これまでの経緯

年度	研究経緯
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子どもの姿「自分で考えて行動できる子ども」 決定 ・「問題発見・解決能力」と「自分づくりに関する力」を育てたい資質・能力に
2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で授業実践を行い、成果と課題を共有できた。
3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を「自分づくりに関する力」に一本化し、指導と評価の充実を目指し、授業の中での子どもの姿に視点を当てて、研究
4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の学習過程を工夫し、問題解決型の授業づくりを研究。

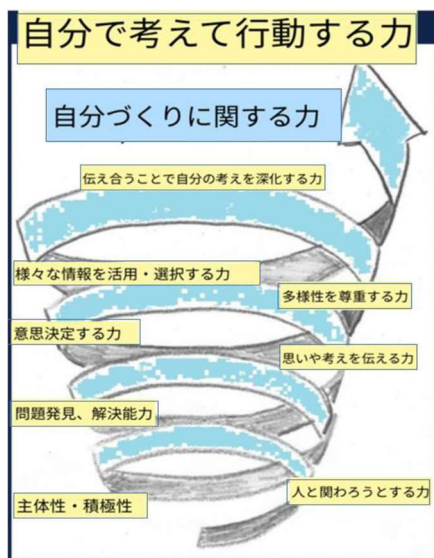
昨年度は「自ら学びをつくり解決できる子どもの姿を目指した学習過程の工夫」というサブテーマのもと自分で考え行動できる子どもを具体化するために本時だけではなく、単元全体の学習過程を工夫し、子ども自らが学びをつくり、課題を解決していけるような授業づくりの研究を進めてきた。

研究の中で大きな成果は、子ども達が身に付けた資質・能力を様々な教科領域で生かしている姿がたくさん見られたことである。例えば、“ICT 機器を活用して、自分の考えを図や写真、資料を引用して考えを伝える姿”、“友達の意見を聞き、考えを広げる姿”などである。このように資質・能力を育てることは、すべての教科領域の学習の質や知識技能、表現力の向上につながる。

その一方で、深化させる子どもの姿がどのような姿なのかがまだ明確になってないという意見もあった。「伝え合うことで深化する力」だけでなく、すべての資質・能力において、どのような子どもの姿を目指していけばよいのか、具体的な子どもの姿を学年で話し合うことが必要だと考える。

そこで今年度は「自ら考え行動できる子ども」という主題のもと「目指す子どもの姿の具体化と問題解決的な学習の充実目指した学習過程の工夫」をサブテーマとして、各学年、1年間で身に付けさせたい資質・能力について年度当初に話し合い、日々の授業や研究授業を通して子どもに資質・能力を身に付けさせていく。

2. 本校で育てたい資質・能力



これまでの、本校の育てたい資質・能力は「問題発見・解決能力」と「自分づくりに関する力」の2本立てだったが、昨年度から「問題発見・解決能力」は「自分づくりに関する力」の中に含まれるという考え方で一本化する。付箋の数を整理することで、より育てたい資質・能力を意識して授業を行っていくことができる。

※詳しくは項目7参照

3. 研究主題

自分で考え行動できる子どもの育成

～目指す子どもの姿の具体化と問題解決的な学習の充実を目指した学習過程の工夫～

「自分で考え行動できる子ども」というのは、「子ども達が問題を見つけ、学習計画を立てていく姿」「子ども達が主体となり、話し合いながら問題解決していく姿」「お互いの考えや思いを尊重し合う姿」「子ども達自身が自らの学習をふり返って次の学習に向かおうとする姿」などである。この姿は、まさに「問題解決的な学習」を充実させることで見られる姿である。問題解決的な学習を充実させることは「思いや考えを伝え合う力」「伝え合うことで深化させる力」「問題発見・解決能力」この3つの資質・能力を育てていくことにも繋がってくると考える。

今年度は、より問題解決的な学習を充実したものにできるように学年で**目指す子どもの姿**や**育てたい資質・能力**を年度当初に考えることで、各教科で一年間の見通しがもちやすくなり、単元の中での手立てをより考えやすくなると考えた。そこで、サブテーマに「目指す子どもの姿の具体化」を追加し、子ども自らが学びをつくり、課題を解決していけるような授業づくりの研究を進めていきたい。

4. 研究仮説

教師が**目指す子どもの姿**を具体化して、子ども自ら問題を発見し、解決していくことのできる**学習過程の工夫**をすることで、自分の考えをもち、思いや考えを伝え合い、そして受け止め、自分の考えを深化していく**子どもの姿**がより見られるだろう。

- ・指導（学習）計画・・・予想される学習活動のことを指す。
- ・学習過程・・・実際の子どもの学習活動を指す。

5. 研究内容

- 目指す子どもの姿、育成する資質・能力を設定し、カリキュラムマネジメントや手立てに生かしていく。
- 子ども自らが学びをつくりだしていけるような**学習過程の工夫**や教師側の**手立て**などを学年研や指導案検討を通して教材研究、事前検討、事後検証をしていく。

視点①：単元の中で資質・能力を身に付けた**子どもの姿**はどのような姿なのか。

視点②：問題解決的な学習を通して、どのような**手立て**をうったことで育てたい資質・能力が身に付いたのか。

注意・・・資質・能力の育成に力はいれるが、単元の目標を達成していくなかで資質・能力を育てていくことを忘れないように。単元目標を無視して資質・能力を育てることが目標となるような授業にならないように注意する。

○ICT活用については授業の中で有効な場合活用する。必須ではない。

○授業研究会は7月から11月までに4回、14教科・領域の中から学年で1教科選択し、講師の指導を受けて研究を深める。

○授業研究会は、学年提案として、部会で指導案検討する

- ・各学年で教科を決める。1学年1教科・領域で学年初めに分担・調整する。
- ・授業で**目指す子どもの姿**を明確にし、学年の先生全員がどのような子どもを育てたいのか具体的に話せるよ

うにしておく。

- ・授業研究会は、学年提案とし、当該学年と各学年、個別、級外を半分に分け部会に参加し、指導案検討、授業参観、事後検討を行う。

※感染症の状況に応じて授業の参観方法を変更する可能性あり。また、クラスの実態に合わせて学年で相談し自習体制をとる。

- ・代表者（講師の先生あり）以外の授業公開は事前にミライムで知らせ、参観できる先生は参観する。

○その他

- ・教科は学年で決めた教科で研究を行う。
- ・育てたい資質・能力を決める→教科を決める→授業者を決めるの流れ。

7. 本校の資質・能力について

自分づくりに関する力	自分づくりに関する力の中に含まれる資質・能力
主体性・積極性	願いを持つ
人と関わろうとする力	地域を愛する気持ち
問題発見・解決能力	好奇心 試行錯誤する力 解決策を実行する力 結果から学ぶ力
思いや考えを伝える力	感じたことを言葉にする力 正しい言葉遣い 順序立てて正しく伝える力 相手の思いを受け止めて聞く力
意思決定する力	自己を理解する力
多様性を尊重する力	他者を理解する力
様々な情報を活用・選択する力	事実を解釈し、自分の考えを形成する力
伝え合うことで自分の考えを深化する力	メタ認知

日程（仮）

日付	指導案検討日	科目	研究代表者
7月13日	6月12日	2年 図工	
		1年 生活科	
9月14日	7月20日	3年 社会	
		個別 外国語活動	
10月31日	10月3日	6年 理科	
		5年 国語	
11月30日	10月25日	級外 家庭科（5年）	
		4年 算数	